



Toya Caldera and Usu Volcano Global Geopark Progress Report 2009-2013



洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会



Contents

1	洞爺湖有珠山ジオパーク推進の基本概念	1
2	組織運営構造と財政状況	6
3	保全政策	7
4	GGN 加盟後の市場戦略と推進活動	10
5	持続的経済発展.....	19
6	戦略的協力関係.....	23
7	ネットワーク活動への貢献	27
8	指摘事項に対する対応状況	31



1 洞爺湖有珠山ジオパーク推進の基本概念

1-1 繰り返される火山災害と火山の恵み

洞爺湖有珠山世界ジオパークは、11 万年前の巨大な火砕流噴火を発生した洞爺カルデラ、2 万年前に活動を開始した世界有数の活火山である有珠山など、火山を核としたジオパークです。変動帯に位置している日本には地震や噴火など地質災害をテーマに据えたジオパークが多くありますが、過去 350 年間に 9 回の噴火を経験しているこのジオパークはその代表格と言えるでしょう。

この地域は常に火山噴火のリスクと向き合ってきました。中でも有珠山は 1663 年に活動を再開し、それ以降 2000 年までに 9 回の噴火を繰り返しています。噴火のたびに新たな溶岩ドームが形成され、周辺地域は地形変動や降灰などの被害を受けてきました。1822 年噴火では火砕流によってアイヌの集落が焼かれ多くの犠牲者が発生、1943-45 年の火山活動では山麓で昭和山が誕生し集落が廃村となりました。1977-78 年の噴火でも泥流で犠牲者が発生しています。一方、



2000 年の有珠山噴火



2000 年噴火では、国道やアパートの下から噴火したり、地殻変動で民家が倒壊するなど、住民の生活する山麓での噴火は多くの被害をもたらしましたが、この地で蓄積された研究と噴火の経験、そして地域住民の努力により、一人の犠牲者も出さず終息を迎えました。

一方で、山体崩壊でもたらされた起伏に富んだ海岸地形は多様な海洋生態系を生み出し、縄文やアイヌの人々は火山が育んだ自然と共生しながら文化を築いてきました。1910 年噴火に伴って湧出した温泉や火山が作り出した美しい景観は、多くの観光客を引きつけています。

1-2 研究者と住民・自治体が育んだ減災文化

世界でも稀なほど人々の居住地が火山活動場と近接しているこの地では、古くから研究者、地元行政、地域住民のリスク・コミュニケーションが行われ、減災文化が培われてきました。

近代火山学が生まれて間もない 1910 年噴火では、噴火 5 日前からの火山性地震発生を噴火の前兆と認識した研究者とその講義を受けていた地元警察署長が主導し、15,000 人もの住民の事前避難、その後引き続き研究者と地域住民が行った住民学習会が行われました。これは、科学的に行われた噴火予測と減災、研究者と住民・行政相互のリスクコミュニケーションのいずれにおいても世界に先駆けた特筆されるべき成果です。1944 年噴火でも、戦時中に関わらず多くの研究者が有珠山を調査し、1910 年噴火で研究者から火山研究を学んだ



当地の減災文化を築いた先人たち(研究者、行政、住民)

地元郵便局長によって記録された昭和新山の形成過程は「ミマツダイヤグラム」として国際学会で高く評価されました。

一方、経済成長が最優先された戦後期になると、この地域が観光地となって多くの人々が訪れるようになるとともに、噴火や災害、減災といった言葉が地元住民に拒絶されるようになりました。その中で迎えた 1977 年の噴火では、研究者・防災関係者が捉えた前兆地震などの情報が生かされず、多くの地元住民は日常生活の中で 12km にも達した噴煙柱を見上げることとなってしまいました。しかしこの経験は住民に新たな減災意識を目覚めさせることとなりました。それは、有珠山のハザードマップの全戸配布、国際火山ワークショップの開催へと繋がり、再び研究者と地元行政、住民が密なリスク・コミュニケーションを図りながら、次の災害に備えるようになったのです。



昭和新山生成 50 周年記念 '95 国際火山ワークショップ

こうした中迎えた 2000 年噴火では、1910 年以降培われた研究成果と行政による減災行動、住民による自主避難が迅速に機能し、噴火の前日には危険が予想される地域のすべての住民の避難が完了していたのです。

1-3 エコミュージアムからジオパークへ



2000 年噴火が終息したこの地域では、火山の恵みである温泉や肥沃な大地、風光明媚な景観がこの地にあること、災害の危険を隠さず安全対策につとめていることを広く知ってもらうことこそが、この地のツーリズムのあり方だという声が住民から挙がりました。地域の人々が、この変動する大地と共生する道を選び、持続可能な地域の形成を目指し始めたのです。それをうけて、地域まるごと屋外博物館として、噴火災害遺構を地域の財産としてありのまま保存、トレイルを整備するなど、「洞爺湖周辺地域エコミュージアム構想」が地元行政と住民が一体で推進されはじめました。その中で、「ジオパーク」というプロジェクトを知ることになります。その思想は地域住民の願いとまさに合致するものとして受け入れられ、GGN 加盟を経てエコミュージアム構想を発展的に解消、世界ジオパークとして歩み始めたのです。

1-4 洞爺湖有珠山ジオパーク ～減災文化の醸成と発信～

洞爺湖有珠山ジオパークの最大の特徴は、火山マイスター制度など地域住民（人）の育成と災害記憶の伝承による減災文化の醸成を強く意識していること、私達のジオパークが幾世代にわたって育んできた「火山との共生」意識をジオツーリズムによって全世界に向けて発信し、人類の共有財産にしたいとの強い意思にあります。ジオパークの基本理念である「貴重なジオサイトの保護と地域の持続的な発展」に加え、地域の持続的発展の中で住民育成、ジオパークの理念に

よる「汎地球的な住民の育成」をも狙っている、教育を強く意識したジオパークであることが最大の特徴です。

こうした理念と活動を持続させてゆくため、私たちは洞爺湖有珠山ジオパーク・マスタープランを定めました。このプランでは、自治体の枠を越えた運営組織、ジオサイト保全、研究活動やジオツーリズムの持続的発展と情報発信、地球科学的な知識と防災減災意識・災害記憶伝承を担う地域住民（火山マイスター等）の育成を明記しました。これに基づいてジオパーク活動を推進しています。



【提 言】 減災文化をジオパークの世界的基準に

地球上で暮らす限り、相対的なリスクの高低はあれど、どの地域であっても地質災害リスクを避けることは出来ません。しかも地域の地形学的・地質学的特性によって、地質災害は様々な形に姿を変えるのです。こうした場では、それぞれの地域に住む人々が科学的な知識と思考に基づいて地域の大地の特性を深く理解し、何が起こりうるか、それに備えどのような行動をとり長期的な社会形成を成していくか考えていかなければいけません。洞爺湖有珠山ジオパークが取り組んでいる火山マイスター制度など住民育成と減災文化の醸成は、恵みの惑星であるとともに災害の惑星でもある地球と人類が共存していくうえで重要な貢献を果たせるものと私達は理解し、その責務を深く認識しています。

ジオパークは、ジオ多様性の保全やローカル社会の持続的発展に留まらず、人々やありとあらゆる生命が地球と共生し幸せに暮らしていくという意識を共有するうえで鍵となる、重要なプロジェクトであると私達は考えています。

特に、ジオパーク活動がアジア・アメリカ・アフリカなど高い地質災害リスクを有する地域にも急速に拡大しつつある今、防災・減災教育、地域の持続的発展と防災・減災を担う人材育成がそれらの地域においても意識されることは重要です。

今後世界のジオパーク・候補地でもこれらの取り組みが意識されるよう、GGN自己評価票において防災減災教育・人材育成への取り組みが重要な評価対象と位置付けられるよう、私達は提案します。



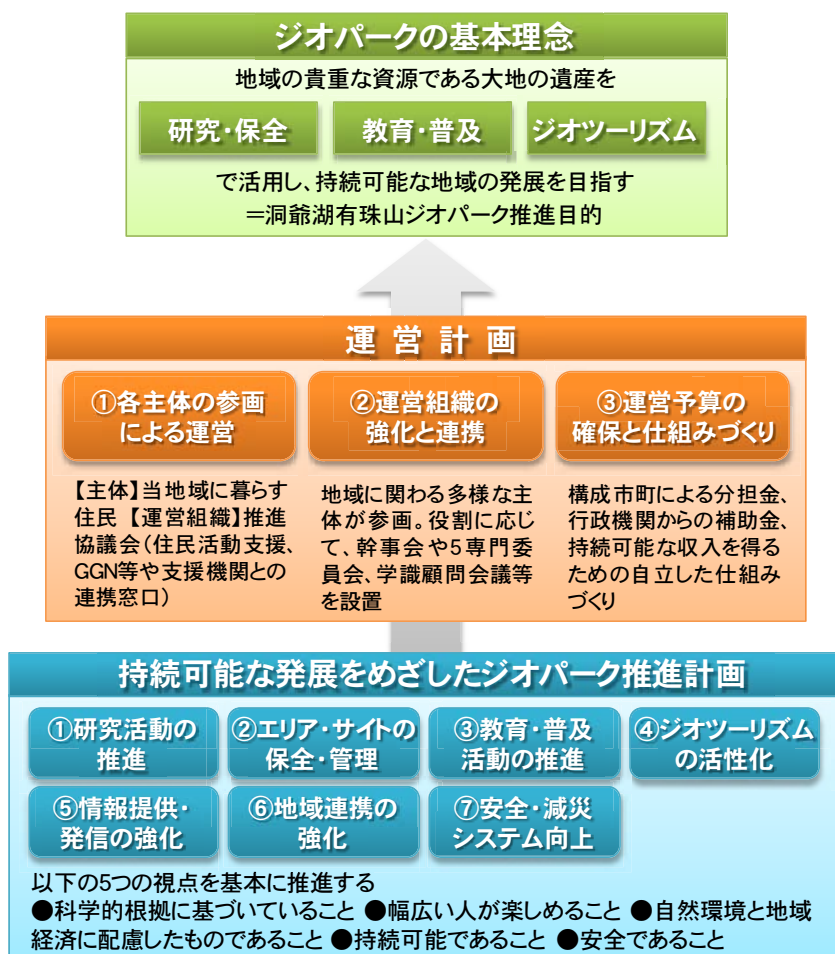
1-5 洞爺湖有珠山ジオパーク・マスタープランの策定と推進

こうした特徴と信念を持つ当ジオパークでは、豊かで安全な地域の持続的発展をめざして、ジオパーク推進の核となる基本構想について議論を重ね、2012年3月に「洞爺湖有珠山ジオパーク・マスタープラン」を策定しました（下図参照）。

このプランでは、GGN ガイドラインと各自治体の総合計画等に準拠し、①運営計画 ②推進計画 ③実施計画 を定めています。運営計画では、長期的なジオパーク活動を意識した持続可能な運営組織づくりのための方針を示し、推進計画ではジオパーク推進の具体的な活動として、研究活動・ジオパークの保全・管理、教育・普及、ツーリズム、多言語対応、情報発信、地域連携、保安と減災システムの向上等について方向性を示しています。

1-6 洞爺湖有珠山ジオパーク推進の基本概念

マスタープランで示している当ジオパーク推進の基本概念は以下の通りで、基本理念・基本方針に基づき、以下の重点推進事項7項目を中心に持続可能な地域の発展を目指しています。



マスタープラン・インデックス

第1章 洞爺湖有珠山ジオパーク推進の目的

- 1-1. 世界ジオパークの基本理念
- 1-2. 洞爺湖有珠山ジオパークを推進する目的
- 1-3. 洞爺湖有珠山ジオパークエリアの概要

第2章 マスタープラン策定の目的と位置付け

- 2-1. 策定の目的
- 2-2. 計画期間
- 2-3. 位置付け

第3章 運営計画

- 3-1. 各主体の参画による運営
- 3-2. 運営組織
- 3-3. 運営予算

第4章 持続可能な発展を目指したジオパーク推進計画

- 4-1. 研究活動
- 4-2. ジオパークエリア・ジオサイト等の保全・管理
- 4-3. 教育・普及
- 4-4. ツーリズム
- 4-5. 情報発信
- 4-6. 地域連携
- 4-7. 活火山地域における安全確保と減災システムの向上

第5章 実施計画

- 5-1. 実施計画
- 5-2. 推進の指標

当ジオパークは、地域の貴重な資源である大地の遺産を「研究・保全」「教育・普及」「ジオツーリズム」の観点で活用し、持続可能な地域の発展を目指します。そのために必要な各種取り組み（上記 7 つの推進事項）を推進するために、基本方針として「各主体の参画による運営」「運営組織の強化と連携」「運営予算の確保と仕組みづくり」を掲げ、各推進項目を実施しています。

なお、本レポートの 2 章～7 章の活動内容は、それぞれマスタープランに示す以下の項目を推進することにより達成しています。

本レポートの章立て (自己評価表 B 表との対応)	マスタープラン対応項目
2. 組織運営と財政状況 (II 組織運営と財政状況)	【運営計画】 ①各主体参画による運営 ②運営組織の強化と連携 ③運営予算の確保と仕組みづくり
3. 保全政策 (III 保全政策)	【推進計画】 ①研究活動の推進 ②エリア・サイトの保全・管理 ⑦安全・減災システム向上
4. GGN 加盟後の市場戦略と推進活動 (V GGN 加盟後の市場戦略と推進活動)	【推進計画】 ④ジオツーリズムの活性化 ⑤情報提供・発信の強化
5. 持続的経済発展 (VI 持続的経済発展)	【運営計画】 ③運営予算の確保と仕組みづくり 【推進計画】 ②エリア・サイトの保全・管理 ④ジオツーリズムの活性化 ⑤情報提供・発信の強化
6. 戦略的協力関係 (IV 戦略的協力関係)	【運営計画】 ①各主体参画による運営 ②運営組織の強化と連携 ③運営予算の確保と仕組みづくり 【推進計画】 ①研究活動の推進 ③教育・普及活動の推進 ④ジオツーリズムの活性化 ⑤情報提供・発信の強化
7. ネットワーク活動への貢献 (I ネットワーク活動への貢献)	【推進計画】 ①研究活動の推進 ②エリア・サイトの保全・管理 ③教育・普及活動の推進 ④ジオツーリズムの活性化 ⑤情報提供・発信の強化 ⑦安全・減災システム向上

2 組織運営構造と財政状況

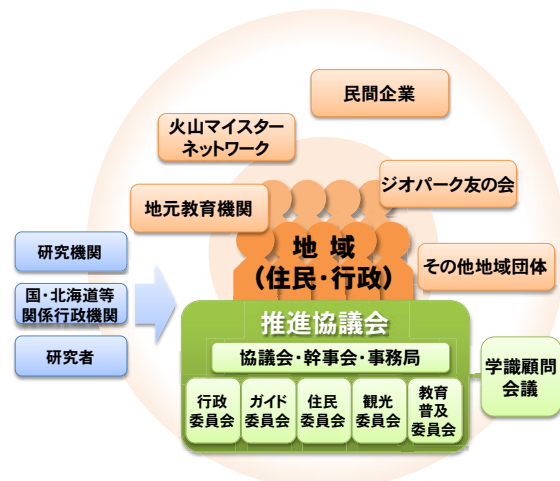
2-1 推進協議会の設立（2010年2月；GGN加盟後）

2009年8月のGGN加盟を受けて、2010年2月に「洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会」を設立しました。当地域では、2000年有珠山噴火以降、復興策のひとつとして「洞爺湖周辺地域エコミュージアム構想」を策定し、当地域の豊かな地形・自然環境・景観・産業・歴史文化等をまるごとひとつの野外ミュージアムと捉えて、防災教育の普及やエコツーリズムの推進、地域振興等に活用してきました。2009年のGGN加盟を受けて、「洞爺湖周辺地域エコミュージアム推進協議会」を発展的に解消させ、新たに「洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会」を発足し、当地域を「世界ジオパーク」として多様な視点から持続的に振興・発展させていくこととしました。

同協議会は、当ジオパークの推進及び活動の主体となる地域住民の支援を目的とし、右図に示すような、住民団体、ボランティア団体、ガイド団体、地域の観光協会、教育関係者、有識者、関係行政機関等、地域活動に関わる多様な主体の外に、学識顧問会議、メディア、研究機関等が参画し、各主体のニーズやシーズを調整または連携しながら推進することを目指した事務局機能として活動を行っています。



洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会設立総会



2-2 財政状況

世界ジオパーク認定後に、構成自治体の負担金、北海道からの交付金など収入が増加し、その資金によりジオパーク普及と利用者に対するサービス向上のための取組みを続けてきました。（各年度の収支は自己評価表添付資料参照）

また、圏域企業（ホテル、ロープウェー等観光事業者）でもジオパークの情報発信施設などの整備が自主的に進められ、それらの効果としてジオガイドツアーの利用者が増加しています。世界ジオパーク登録に加え、2011年の震災後の防災意識の高まりにより、学校の防災教育のニーズが増え、当ジオパークにおけるジオサイト／施設の利用数も増えていますが、これが地域の関連企業全体の継続的な増収に結び付くよう期待し、取り組んでいるところです。

3 保全政策

3-1 ジオサイトの保全年間

ジオサイトを活用し、ジオパーク活動を推進していくうえで、ジオサイトを保全することは、重要な責務のひとつです。洞爺湖有珠山ジオパーク・マスタープランでは、ジオサイトの保全の方針（第4章第2項）を定めました。これを踏まえ、国・自治体レベルの法規制による保護を軸とし、ジオパーク活動としての維持管理・保護活動で補完することによって、ジオサイトの保全をはかっています。保護に関わる法規制としては、次のものがあります。

①自然公園法	国立公園内の動植物・地質の破壊・持ち出し防止
②国有林野の管理経営に関する法律	国有林野における生態系保全、開発のコントロール
③文化財保護法	有形・無形文化財、天然記念物の保護
④北海道自然環境等保全条例 各自治体の文化財保護条例	善光寺、北黄金、礼文華等それぞれ指定された地区の開発制限

これら法規制による保護が難しいジオサイトについては、「変動する大地」を対象とするジオパークであることから、

- a.変動する大地の一部として自然の経過に任せるもの
- b.安全管理、時間経過や人為的な破壊損傷の防止、視認性確保や美観維持のため最小限の手を加えて維持するもの

に区分し、当協議会が継続的に監視・保全しています。

3-2 ジオサイトの保全活動

ガイド活動を兼ねた巡回、除草、ごみ拾い等、日常的な保全活動は、管理者、地元住民団体が恒常的に実施しています。また、ジオサイトの保護や来訪者の安全を脅かす事例が表面化した場合や、大掛かりな保全活動も、協議会の支援、自治体・関連団体への働きかけ、学識顧問の助言等を行う中で進められています。

また、新規ジオサイトの選定によって地域資源の保護を行うとともに、ジオサイトデータブック（別冊1参照）を5カ国で作成・公開し、ジオサイトの価値の理解と利活用を図っています。

なお、保護・保全に際しては、当協議会学識顧問が調査・協議に加わり、科学的視点による監視をしています。

地域の開発行為におけるジオサイト保全への配慮

以下に、これまで取組んだジオサイト等の主な保全活動の事例を紹介します。

道道 2 号線上の断層

洞爺湖畔の道道 2 号線上には、近年の噴火に伴う断層の活動の変動を市街地で観察できる重要なポイントがあり、解説看板を設置しガイドツアー等で活用しているが、当該断層部分を直線化する計画が持ち上がった。これに対し、協議会、町、北海道の三者による協議により、今後も観察可能な形に計画変更された。



道道 2 号線上で観察できる断層

温泉の泉源試掘調査における対応

洞爺湖温泉の維持のため、温泉管理組合により泉源の管理・調査が継続的に実施されているが、試掘調査範囲がジオサイトに干渉すると協議会に相談が寄せられ、現地調査・協議の上、計画を変更し保全が図られた。



保全された、2000 年噴火で生じた断層

住民が主体となって実施したサイト保全、復元作業

当ジオパークは、2012 年 3 月に策定した「洞爺湖有珠山ジオパーク・マスタープラン（第 3 章第 1 項）」に定められるように、地域住民が主体となり推進する体制づくりをめざしています。そのなかで、「NPO 法人有珠山周辺地域ジオパーク友の会（会員数 83 名）」「火山マイスターネットワーク（会員数 23 名）」をはじめとした当地域の各住民団体や、建設協会等の民間団体が、協議会と緊密な連携を持ちながらジオサイトの保全活動を担っています。

旧とうやこ幼稚園の除草整備

ジオサイト「旧とうやこ幼稚園」では、2000 年噴火による影響（噴石被害、隆起による土地の傾斜等）が観察できるよう、住民自らの手で保全を行うべきとの声が上がった。地域住民団体等への参加の呼びかけを行い、当協議会や学識顧問会議委員も参画して 2012 年 11 月に 2000 年噴火以降の植生回復観察エリアを残した上で、被災状況を明白にするための大規模な除草、保全整備が行われた。除草整備は今後も当協議会や学識者の助言のもと、住民の手により継続的に実施されることとなっている。



旧とうやこ幼稚園の園庭整備

新山沼展望公園

NPO 法人ジオパーク友の会により、2010 年より毎年 2～3 回、有珠山の噴出物が観察できる保存露頭（ジオサイトドンコロ山のスコリア丘）の継続的な保守活動（除草、露頭の復元、説明用のプレート設置）が行われている。



ジオパーク友の会による保存露頭の
除草ボランティア

四十三山展望台

1910 年の噴火で誕生した四十三山では、かつて山頂展望台から有珠山頂や洞爺湖の眺望があった。しかし、現在は植生回復により展望が失われたため、NPO 法人ジオパーク友の会により、環境省、林野庁などの関係機関と保全に関する協議のもと、2013 年 5 月に法規の範囲内で樹木剪定等の保全が行われた。



四十三山展望台保全ボランティア

ジオサイト・パトロール

洞爺湖有珠火山マイスターネットワークでは、2013 年より自らの手でサイトを守る「ジオサイト・パトロール」が実施されている。活動では日常またはガイド活動の中で、サイトの安全性や保全状況を確認し、協議会と共同して改善を図ることとしている。



ジオサイト・パトロール



4 GGN加盟後の市場戦略と推進活動

4-1 計画・制度の整備

ジオパークの安定した運営と地域の持続的発展を意識した基本計画の策定は、GGN 認定当初からの課題であり、地元有識者やガイド・各団体との協議を重ね、次の計画、制度等を策定しました。

洞爺湖有珠山ジオパーク・マスタープラン

本レポート冒頭に記載したとおり、当ジオパーク推進に当たっての基本概念を示した「マスタープラン」を策定し、運用しています。



ジオパークを活用した観光地づくり推進計画

地域産業の核である観光業の再興にジオパークを活用する観点から、北海道をはじめとする各種関係機関と協議の上、2010年12月に「ジオパークを活用した観光地づくり推進計画」を策定し、ジオパーク内のアクセス整備やジオサイト、展示施設、案内施設整備の方向性を示し、観光地として統一のとれた発展をめざす方針を定めました。

その他の計画・制度等

さらに、個別の計画や制度として、次のものを整備し、運用しています。

ロゴマーク使用要領（2010年2月）

公式ロゴマークの使用に関する手続き等を定める。

イメージグラフィック使用要領（2010年9月）

公式イメージグラフィックの使用に関する手続き等を定める。

ジオパーク・パートナー登録制度容量（2012年2月）

ジオパークの魅力と価値を伝える担い手の育成とネットワーク化を図り、地域のガイド活動の向上をめざす。

洞爺湖有珠山ジオパークサイン整備計画（2012年3月）

洞爺湖有珠山ジオパークへの来訪者や住民の利便性向上を図るため、道路標識・案内看板等の基本的事項を定める。

4-2 普及・情報発信活動

ジオパークの普及や価値の向上、当ジオパークへの興味関心の喚起や来訪者の増加を目指して、様々な場面で情報発信に努めています。

日本ジオパークネットワーク大会（洞爺湖有珠山大会）開催

2011年9月28日～10月1日、第2回日本ジオパーク全国大会を当地域で開催しました。ジオツアー、フォーラム、講演会、JGN認定書授与式、各地域及び子どもたちの取組発表、ポスターセッション、ジオフェスティバル等のプログラムを実施し、のべ2,000人が参加しました。また、①ジオパーク活動を通して持続可能な地域社会の形成、②防災意識と環境配慮意識の高い社会、③先人の教訓の伝承、④地域間連携によるジオパーク発展と拡大をめざす「洞爺湖有珠山ジオパーク宣言」（別冊2参照）が採択されました。

国内外のジオパーク関係者と地元住民が多数参加し、エクスカーションなどを通じて当ジオパークの魅力やジオパークの理念の浸透、地域活性化に大いに貢献しました。



第2回日本ジオパーク全国大会 洞爺湖有珠山大会



地域イベントでのジオパーク普及活動

次に挙げるイベントは、GGN 登録以前より実施されていたものですが、ジオパークのコンセプトを取り入れ、地域の新たな魅力として参加者全員にジオパークの資料を配布し、PR している行事です。

洞爺湖有珠山ジオパーク 洞爺湖マラソン大会

毎年 5 月開催 参加者：約 8,000 人（2013 年実績）

洞爺湖有珠山ジオパーク 北海道ソーデーマーチ

毎年 9 月開催 参加者：約 1,300 人（2012 年実績）

洞爺湖有珠山ジオパーク 昭和新山国際雪合戦大会

毎年 2 月開催 参加者：約 1,400 人（2013 年実績）



洞爺湖マラソン

その他、次の地域イベントに参加し、洞爺湖有珠山ジオパークの内外への普及・浸透を図っています。

洞爺湖温泉冬まつり

毎年 2 月開催 参加者：約 4,000 人（2013 年実績）

壮瞥町冬まつり

毎年 2 月開催 参加者：約 300 人（2013 年実績）

とようら北の収穫祭

毎年 2 月開催 参加者：約 4,000 人（2013 年実績）

いちご豚肉まつり

毎年 6 月開催 参加者：約 30,000 人（2013 年実績）

とや産業まつり

毎年 6 月開催 参加者：約 7,000 人（2012 年実績）

とや湖縄文まつり

毎年 7 月開催 参加者：約 200 人（2012 年実績）

洞爺湖カヌーキャンプ

毎年 7 月開催 参加者：約 300 人（2012 年実績）

有珠山頂夜まつり

毎年 7 月開催 参加者：約 1,000 人（2012 年実績）

だて噴火湾縄文まつり

毎年 8 月開催 参加者：約 300 人（2012 年実績）

だて食のフェスティバル

毎年 9 月開催 参加者：約 21,000 人（2012 年実績）

そうべつりんごまつり

毎年 10 月開催 参加者：約 10,000 人（2012 年実績）

月浦ワインまつり

毎年 10 月開催 参加者：約 1,200 人（2012 年実績）

アイアンマンジャパン（国際トライアスロン大会）

毎年 8 月開催 参加者見込み：約 2,000 人（2013 年より開始）



北海道ソーデーマーチ



昭和新山国際雪合戦

観光プロモーション活動

次のとおり、国内外に向けた観光プロモーション活動に参加し世界ジオパーク地域としての情報発信と誘客活動を行っています。

【海 外】

タイ・マレーシア : 6 回 19 名

中国・韓国 : 4 回 28 名

【国 内】

東 京 : 12 回 60 名

札 幌 : 16 回 80 名



海外プロモーション事業（マレーシア）

ジオパークガイドブックの作成

ジオパークエリアの見どころ、その背景にある知識をより深く知りたい方のために、次のガイドブックを作成し、圏域内のショップ、ミュージアム、インフォメーション、ホテルなどで販売するとともに、ホームページでも紹介・販売しています。



既刊ジオパークガイドブック（各 200 円）

	タイトル	紹介エリア	執筆者
日 本 語 版	00 洞爺湖有珠山ジオパーク ～変動する大地を探る～	全域	学識顧問 火山マイスター 地元学芸員
	01 四十三山（明治新山）ルート歩く	四十三山	
	02 金比羅山・2000 年噴火遺構公園ルート歩く	金比羅山	
	03 西山山麓火口散策路ルート歩く	西山山麓	
	04 外輪山遊歩道を歩く	外輪山遊歩道	
	05 噴火湾沿岸のジオサイトを巡る	噴火湾沿岸	
	06 昭和新山とその周辺を巡る	昭和新山周辺	
	07 洞爺カルデラとその周辺を巡る	洞爺カルデラ周辺	
英 語 版	E0 Toya Caldera and Usu Volcano Global Geopark ~Exploring the Ever-Changing Earth~	全域	
	E2 Konpirayama Trail and 2000 Eruption Memorial Park	金比羅山	
	E3 Trail at the western Foot of Nishiyama	西山山麓	

教育旅行向けジオパークテキストの作成

2013年3月、国内の小学校の理科の授業に合わせた、教育旅行向けジオパーク野外学習テキスト（児童用・指導者用）を作成しました。文部科学省の教育指導要領に沿った内容で、現場の先生が当ジオパークを題材に取り上げ、指導しやすい構成となっています。また、このテキストの活用について、顧客である学校側のニーズに即したガイドができるように、実際に案内を行うガイド向けのテキストの説明会を実施しています（2013年5月 2回実施）。併せて、地域の学校にも配布を行い、活用を呼びかけています。

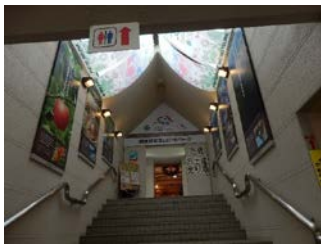


4-3 基盤整備

当ジオパークが安全でより魅力的なジオパークとなるよう、各種関係機関との連携による協議会主体の基盤整備及び地元住民や民間企業が主体となった各種基盤整備を行っています。

協議会による基盤整備

GGN 認定以降、来訪者の受け入れ態勢づくりとして、次の整備を実施しました。



道の駅大滝のジオパーク展示スペース

①新千歳国際空港からの入口施設である「道の駅フォーレスト 276 大滝」にジオパークの展示スペースを新設



とや水の駅 ジオパーク展示

②ジオパークのミュージアム(16 施設)、インフォメーション (6 施設) に、ジオパークの施設表示、統合案内板、歓迎サイン、パンフレットコーナー等を設置



ジオパーク総合案内板(39 カ所に設置)



洞爺湖バスターミナルに設置したフラッグ

③公共交通拠点として、JR 伊達紋別駅、洞爺駅、豊浦駅、洞爺湖バスターミナルに各種ジオパークサインを設置



パンフレットコーナー

④地域事業者向けにジオパークのぼり、卓上のぼり、協力店シート等の普及媒体を配布。



珍小島公園

⑤解説看板の新設 : 45 基
修正 : 73 基
合計 : 118 基

GGN のロゴ及び当ジオパークのロゴを表示



⑥道路誘導サインの修正 (ロゴ配置等) : 235 基

当ジオパークのロゴを表示

民間による基盤整備

有珠山 RW 山麓／山頂駅

民間企業である有珠山ロープウェイ（ワカサリゾート㈱）が、山麓駅に「ジオパーク火山村情報館」（2011 年）、山頂駅に「山頂防災シアター」（2013 年）を設置し、積極的にジオパークの普及活動に参画している



アルトリ海岸ネイチャーハウス

火山マイスターである福田茂夫氏が個人で建設した展示学習施設。建設後、ジオパークのミュージアムに登録された。



ホテル「乃の風リゾート」

ホールにジオパーク紹介パネル、ジオパーク情報コーナーを設置



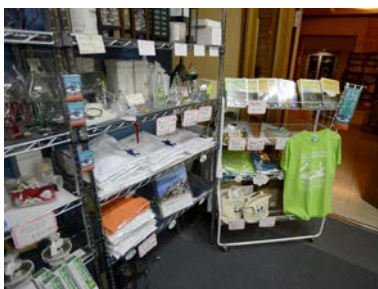
ホテル「洞爺湖温泉観光ホテル」

ホールにジオパーク情報コーナー、防災マップ等を配置



ホテル「湖畔の宿かわなみ」

ホールにジオパーク情報コーナーを設置するとともに、オリジナルジオパークグッズを制作販売 等



ホテル「ホテル山水」

ホールにジオパーク情報コーナー、防災マップ等を配置



4-4 ガイドツアーの企画立案・推進活動

来訪者にジオサイトの案内や解説を行い、当ジオパークの魅力の付加価値を提供するため、各種ガイドツアーの企画立案や試行、実施が、協議会のみならず民間主体で積極的に行われています。

■ モデルコース・トレイルの設定

当協議会では、GGN 加盟後、ジオサイトや体験コンテンツなどジオパークのさまざまな魅力をつなぐモデルコースを設定し、モデルコース体験リーフレット（5カ国）やジオパークガイド（2カ国）で紹介しています。また、20コース（徒歩17コース、サイクリング2コース）のトレイルとして整備・安全管理を行っています。（ジオサイトデータブック p15-p21 参照）

■ ジオパークガイド講習会

GGN の一員として、来訪者により高いホスピタリティを提供するため、以下のようなジオガイドのあり方の指針を示し、講習会等によるガイドの育成・増員を図るとともに、ガイドの技術・知識の向上を目指した勉強会を積極的に開催しています。また、各ガイド団体の活性化をはじめ、ホームページ、パンフレットでの紹介などを行い、職業ガイドのビジネスチャンスの拡大に資する取り組みを推進しています。



ガイド講座（リスクマネジメント）



ジオパーク友の会ガイド研修会

- ①ジオパークの理念を理解し「ジオから始まるストーリー」を自らの言葉で語ることができるガイド
- ②ジオパークエリア・テーマ全体を、横断的に案内できる知識を持つガイド
- ③フィールドツアーを統率し、責任を持って来訪者の安全を管理できるガイド
- ④外国からの来訪者に対応できるガイド

ガイドを対象としたトレーニングプログラムとしては、当協議会主催の「火山マイスター養成講座（10回実施、のべ379名参加）」「ジオパーク・パートナー講座（7回実施、のべ244名）」「ガイド勉強会・交流会（9回実施、のべ103名参加）」があります。

民間によるガイドツアーの造成

当ジオパークでは、協議会による企画のみならず、地域住民や民間事業者、公益法人等が積極的にガイドツアーの企画立案を行い、新たな魅力を次々に生み出しています。

湖上ジオパーク・クルーズツアー

湖上遊覧組合により、ガイド付き湖上ジオパーク・クルーズツアーを企画・実施。ガイドは協議会学識者のサポートを受け、火山マイスターなどがあたる。



洞爺湖有珠山ジオパーク スカイクルーズ

湖畔の高台のサイロ展望台発着の、ジオパークのヘリコプター遊覧飛行。利用者にはジオパークパンフレットを配布。当協議会よりパイロットにガイド指導を行っている。



ジオパーク・フォトアドベンチャー

観光協会、地元ガイド等の企画により、ジオサイトを巡り、情報を調べながら写真を撮影するゲーム形式のツアーを実施。



有珠山ロープウェー・ジオガイドツアー

有珠山ロープウェーにより、有珠山山頂駅～火口原展望台を巡るジオパーク・ガイドツアーを実施している。



旅行代理店によるツアー

旅行代理店企画のジオパーク・パッケージツアーが各種実施されている。



外国人モニターツアー、アンケート調査

GGN 地域としての基盤整備の一環として、外国人の目線から見た情報解説、ガイドツアー、施設サイン、パンフレット等の効果と改善点の抽出を目的としたモニターツアーを実施しました。

北海道国際交流員招へいモニターツアー 2013 年 2 月

カナダ、中国、韓国（計 3 名）の在道外国人に 2 日間のジオパークツアーを体験してもらい、満足度や、サイト／施設／サイン／パンフレットなどの内容について意見を聞いた。また、参加者は事後にそれぞれの言語で当ジオパークの体験記を執筆してもらい、web に掲載し世界に発信している。



留学生対象モニターツアー 2013 年 3 月（2 回実施）

近郊の室蘭市にある室蘭工業大学の留学生（籍：マレーシア、インドネシア、中国、韓国、ラオス、ミャンマー、タイ、フィリピン、ベトナム 計 31 名）を対象に、「ジオパークの火山と食の体験」をテーマとしたモニターツアーを実施した。アンケート調査結果の満足度は高く、出た意見は今後のツアー企画に活かすこととしている。



参加した留学生



ジオパーク圏域食材（ジオパークの大地の恵み）を使った料理教室

国内向けモニターツアー、アンケート調査

住民、観光事業者、旅行代理店、メディア向け、学校教員向けのモニターツアーを計 8 回実施し、アンケート調査によるニーズ把握及び、参加者を通じた情報拡散を図っています。



2000 年の噴火による隆起エリアと保存住居をめぐり



教員向けモニターツアー



ジオパークの大地の恵みを
楽しむ

5 持続的経済発展

5-1 観光地としての現状

観光入込客数の推移

当ジオパークが属する北海道の西胆振地域は、北海道を代表する観光地の一つです。しかし、有珠山噴火（2000年）、世界金融危機、新型インフルエンザ、口蹄疫、そして東日本大震災及び原子力発電所の事故という、地域の努力では抗しがたい逆風のなかで、国内外の団体観光客をメインターゲット

としていた当地域の観光入込客数は下降傾向でした。しかし、ホームページやSNSおよび各種イベントでのPR、魅力あるガイドツアーづくり、観光協会とタッグを組んだ地域内周遊型ツーリズム等を通して、ガイドツアー利用者などの新たな客層の開発への努力を重ねたことにより、最新のデータでは、観光入込数が増加に転じる推計となっており、ジオパーク活動に大きな期待がかけられています。

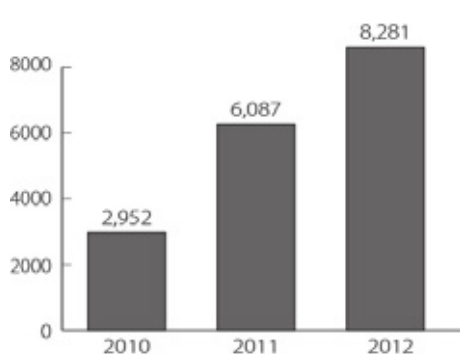


世界ジオパーク登録の効果

特に成果として強調したいのは、ジオツアー参加者の伸びです。当ジオパークの主要サイトである有珠山ロープウェイが実施するガイド付きジオツアーの利用者は、2010年は2,952人、2011年は6,087人、2012年は8,281人と、GGN認定後に飛躍的な伸びを見せています。

また、観光入込客数に対する外国人宿泊者数の割合は年々高まっており、GGN登録による国外への知名度の向上等によって、海外からの来訪者が相対的に増えているものと考えられます。

■ 有珠山ロープウェイのジオガイド利用者



■ 観光入込客数と外国人宿泊者数（洞爺湖町・壮瞥町）



5-2 持続的な経済発展戦略

前述のように極めて厳しい観光環境の中でも、当ジオパークの情報発信やガイドツアーの企画等によって一定の成果が得られていることから、今後とも来訪者にとって有益な情報発信と魅力的なガイドツアーの企画を推進し、持続可能な経済発展を目指します。

ジオの「学ぶ」「巡る」「恵みを楽しむ」資源の活用

当協議会の活動やさまざまな民間の観光関係者の努力により、リピーターを確実に獲得しつつあります。当ジオパークは以下のような恵みにあふれており、推進ための有益な資源としてこれらの情報発信や活用に使っています。

学ぶジオパーク

当ジオパークは火山地形や地質、生態系、歴史文化等の資源が豊富であり、児童生徒や学生、研究者をはじめ、一般人も関心を持ち「学ぶ」ことができます。すでに修学旅行の誘致や大学等研究機関の研修、JICA を通じた海外からの研修を受け入れており、「学ぶ」ことのできるジオパークとして積極的に発信しています。



巡るジオパーク

風光明媚な地形と豊かな自然環境は、多くの来訪者に癒しと安らぎを提供しています。変動する大地がつくりだしたこの地を「巡る」ことによって、保養や休暇のリゾートとして一層利用されることを目指し、安全なトレイルの整備やモデルコースの提供、情報発信に使っています。



恵みを楽しむジオパーク

ジオパーク活用による地域の持続的発展を実現するため、農畜産物やワインといった食や景観・温泉、自然体験学習等を「ジオの恵み」として新たに展開し、圏域のブランド力向上や新産業の構築に取り組んでいます。



5-3 民間による経済活動

当ジオパークでは、民間による施設整備、ツアー造成、普及活動など、さまざまな取組が進められており、世界ジオパークの価値を広め、地域経済を牽引する強力な起爆剤となっています。



民間の施設整備、ツアー造成

民間による施設整備、ジオツアーの商品開発が行われています。（再掲）

【基盤整備】

有珠山 RW 山麓／山頂駅
アルトリ海岸ネイチャーハウス
ホテル「乃の風リゾート」
ホテル「洞爺湖温泉観光ホテル」
ホテル「湖畔の宿かわなみ」

【ツアー造成】

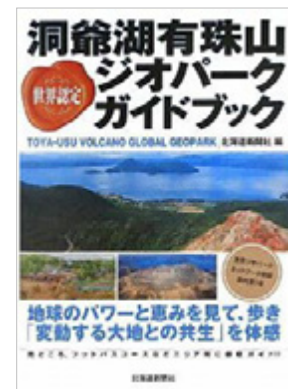
湖上ジオパーク・クルーズツアー
洞爺湖有珠山ジオパーク スカイクルーズ
ジオパーク・フォトアドベンチャー
有珠山ロープウェー・ジオガイドツアー
旅行代理店によるツアー

マスメディアとの連携

2000 年有珠山噴火において、当地域に密着して情報収集や発信を行う等、長い歴史の中で培われてきた新聞、雑誌、ラジオ、テレビなどのマスメディアとの強い連携を活かしてジオパークの推進に取り組んでいます。

以下は、近年の代表的な取り組み事例です。

- 北海道新聞社による「洞爺湖有珠山ジオパークガイドブック」
（2011 年発行、A5 版、フルカラー、128 頁）の出版
- 室蘭民報社による「ジオパーク特集号」
（2011 年 紙面 6 ページ使用）の発行



ジオパークグッズの企画・販売

GGN 認定後、当ジオパークのロゴとイメージグラフィックスを活用し、地域事業者が主体となって様々な商品がつくられてきました。これらのグッズや商品等は販売されることで経済的利用がされているとともに、当協議会としてもジオパークの知名度を高める媒体として活用する等、協議会と事業者の協力体制のもと、今後もさらなる普及を進めます。



芸術文化との融合

当ジオパークを舞台に表現された、写真家やピアニストなどの芸術家による写真集、DVD、コンサート活動などが行われ、当地の文化的魅力の発信やジオパークのイメージ向上に大いに貢献しています。

地域の食「ジオパークの恵み」のブランド化と発信

当地域には、「豊浦いちご」「噴火湾ホタテ」「大滝きのこ」「そうべつさくらんぼ」など、さまざまなブランド食品があります。当ジオパークでは、これらの豊富な食の資源を「ジオパークの大地の恵み」として、ジオパークのストーリーと共に積極的に紹介し、地域の産業との連携・融合と、地域経済発展に取り組んでいます。



ロゴ・イメージグラフィックスによるブランド管理



ロゴ

イメージグラフィック

当ジオパークでは、「公式ロゴ」に加え、地域の火山やカルデラの景観、アクティビティなど、ジオパークの楽しみを視覚的に伝える「イメージグラフィックス」を作成し、普及媒体やグッズ、食の商品、ガイドのワッペンなどに表示することでジオパークのブランドイメージの統一化と発信を行っています。また、公式ロゴは、誘導標識や公的解説看板、協議会が発行したパンフレット

などに使用し、科学的裏付けを保障するサインとして活用しています。

5-4 修学旅行等での利用

小中学校、高校では、1 週間程度、学校から離れ、現地を見ながら学ぶ「修学旅行」が行われます。当ジオパークエリアは、風光明媚な景観のみならず、火山噴火災害の経験やそこからの復興の過程、防災学習等の面で、学校教育に有益なフィールドおよび情報の提供を行うことができます。

これらの活動は前述の学習素材(教育旅行向けジオパーク野外学習テキスト)の作成や、連携している学識経験者による講義などを通じて、防災教育とジオパークの普及に貢献しています。



6 戦略的協力関係

6-1 洞爺湖有珠火山マイスターとの連携

当ジオパークエリアを含む地域では、次の噴火に備えた地域の防災リーダー「洞爺湖有珠火山マイスター」の認定を 2008 年から始め、年 1 回の認定審査を経て、現在 23 名が認定されています。火山マイスターは洞爺湖有珠火山地域の自然や特性についてしっかりと学び、正しい知識や噴火の記憶・経験、災害を軽減する知恵などを、次世代や地域内外の方々に向けて自らの言葉で語り継いでいく「学びと伝えの実践者」で、その活動を通じて、防災を主要テーマとする当ジオパークの発信役ともなっています。実際に有珠火山の知識や過去の噴火災害の経験をベースに、地域の魅力、火山の恵み等を幅広く解説する火山マイスターのガイドツアーは、来訪者に大きな満足感を与えています。

また、火山マイスターの中学・高校生版である「洞爺湖有珠火山ジュニアマイスター」の認定を通年で行い、現在 95 名が認定されています。当協議会は北海道と協働して制度運営を担っており、今後もマイスターの活動を支援していきます。



■ 洞爺湖有珠火山マイスター認定審査の合格者数

年度	2008	2009	2010	2011	2012	合計
合格者	6	5	5	5	2	23

火山マイスターの多方面の活躍

火山マイスターには、観光事業者、教員、ネイチャーガイド、学芸員、ビジターセンター職員、写真家、町議会議員、商工会職員、行政職員等の様々なメンバーがいます。2011 年には、任意団体「火山マイスターネットワーク」を自主的に立ち上げ、過去の噴火の避難経験や、減災のための知恵を語り継ぐための学習会、ジオツアーの講師等の他、地域の内外で洞爺湖有珠山ジオパークの魅力を広く発信する活動を精力的に続けています。また、地質学、生態学、考古学、地域史研究、教育研究など、専門性を持つマイスターの存在は、講師やガイドブックの執筆などにおいて、協議会の活動を力強くサポートしています。



川南火山マイスターによる東風景

最近の活動事例としては以下のようなものがあります。

- 昭和新山生成で昭和新山の一部と化した旧集落の遺構探査
- 有珠山周辺の湧水個所調査（水温・水量変化の継続的調査）
- 洞爺湖のジオサイトを巡る湖上ジオツアーの開発
- 来訪者アンケート調査
- ジオサイトの保全のためのパトロール活動

6-2 地域の学校教育との連携

当地域では、将来の地域を支える人材育成として、ジオパークの普及と火山防災教育に力を入れており、GGN 認定後、圏域内の学校に積極的な活用を呼び掛けています。ジオサイトの利用数は、2008 年度の 1,498 人から 2011 年度には 3,877 人になる等、全ての市町において増加しています。また、2012 年度からは火山マイスターの学校への派遣事業を開始する等、地域の学校教育におけるさらなる活用促進をめざしています。最近の活動事例は以下の通りです。

■ 圏域の小中高校のジオサイト利用数



子ども郷土史講座

地域の子どもを対象とした郷土史講座で、特に火山と共生する地域として火山学習や登山会などに力を入れ 1983 年より毎年継続して行っています。GGN 認定後は、ジオパークの学習を更に強化して実施しています。



まるごとジオパーク

地元中学校（壮瞥中）のカリキュラムの中でジオパーク（農業・観光・火山）を 3 年間かけて学ぶコースを設定し、継続的に「ジオパーク学」の教育を行っています。



洞爺湖温泉小学校 噴火慰霊行事 2012 年 10 月 24 日

有珠山噴火の影響で 1978 年に発生した泥流災害によって犠牲者が出た同学校で、毎年実施されている慰霊行事に、2012 年度より火山マイスターを講師として派遣し、有珠火山の特徴と過去の噴火災害についての講義を行っています。



高校生リーダー研修会 2012 年 8 月 2 日（木）

下記防災キャンプの開催前に、高校生をリーダーとして育成する目的で行われた研修会で、当協議会の学識スタッフが有珠山噴火などについての講義を行いました。



防災キャンプ 2012 年 8 月 17 日（金）～19 日（日）

小中高校生、保護者合わせ 30 名の参加のもと、災害発生時に的確に行動する力を身につけることを目的に、住民の避難所生活を想定した合宿研修が行われました。



6-3 学識顧問会議

学識的知見から当ジオパーク及び協議会の活動に助言や提言を行う機関として、当協議会の設立と同時に発足しました。10名のメンバーは、当地域において研究活動を行ってきた火山学、地質学、防災学、生態学、考古学等の各方面の有識者で構成されており、当ジオパークの「研究・保全」「教育・普及」「ジオツーリズム」の推進に様々な助言を得ています。また、委員が自ら国内外の学術会議等における研究発表で当ジオパークにおける活動を広く発信し、ジオパークの普及に貢献しています。

6-4 その他機関との連携

当ジオパークは、洞爺湖有珠火山マイスターネットワークやNPO法人ジオパーク友の会などの住民団体に加え、学校・教育機関、民間企業、公益機関、行政機関、防災機関など、当地で活動する様々な活動主体と協力関係を構築しています。これにより、ハード面・ソフト面の充実、人的支援、情報交換、インフラや交通基盤等の整備、各種防災対策事業の推進、情報発信の支援など、多様な場面で大きな力を得ています。

また、大学や地質研究所等の研究機関や所属する研究者に研究フィールドや資料等の提供を行う一方で、学識的な知見・研究成果の提供や学生の研修の誘致、学術会議等における当ジオパークの紹介等の様々な面で連携・協力を行っています。

組 織	詳 細
博物館	・洞爺湖ビジターセンター（環境省） ・北黄金貝塚情報館（市設） ・三松正夫記念館（私設） 等圏域 15 施設 ・全国火山系博物館連絡協議会（日本全国 10 博物館）
地質調査所	・産業技術総合研究所 地質情報研究部門 ・北海道立総合研究所 地質研究所
大学・研究所	・北海道大学大学院理学研究院 ・酪農学園大学 ・伊達市噴火湾文化研究所
旅行会社・代理店	・全国旅行業協会北海道支部
共同事業	・北海道立教育研究所附属理科教育センター
（公共）機関・施設	・有珠火山防災会議協議会 ・気象庁札幌管区气象台、室蘭地方气象台 ・林野庁北海道森林管理署 ・国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部 ・北海道室蘭建設管理部

6-5 視察の受け入れによる人的連携の構築

2009 年の GGN 加盟認定以降に行われた研究機関、視察受け入れ実績を示します。

海外の視察受け入れ

韓国済州島ジオパーク

視察団（Prof. Woo, Kyong Sik 氏他 2 名）の 3 日間視察受入、ジオサイトの保全・活用について意見交換を行った。

韓国 DMZ ジオパーク視察対応

2012 年 5 月 17 日（木） 2 名 事務局訪問、ジオパーク基礎情報提供、意見交換

セントヘレンズ山と有珠山の植生回復の対比視察

2010 年 7 月 21 日-23 日 計 5 名(米国 1 名, 韓国 1 名)

国際的な若手研究者集会での活用

International Workshop on Progress of Research for Disaster Mitigation of Earthquakes and Volcanic Eruptions in the North Pacific Region (2010.5.12) で、日米露の若手研究者の見学先として有珠山を訪問

国内の視察受け入れ

国内の研究機関

継続的に、次の大学の地球科学関係の研究による巡検を受け入れています。

東京大学、早稲田大学、東京理科大学、北海道大学、富山大学、東北大学、金沢大学 等

国内のジオパーク、その他機関

その他、国内のジオパーク地域を含む機関の視察受け入れ実績は、計 52 回 430 名。



7 ネットワーク活動への貢献

7-1 他ジオパークとの相互交流による貢献

GGN 国際会議等への参加と連携構築

ユネスコイニシアチブに向けたアプローチを続ける世界ジオパークネットワークの一員として、GGN、APGN 会議へ参加するとともに、GGN メンバー間での連携を構築しながら、ジオパーク活動の普及とネットワークの活性化に積極的に取り組んでいます。



第4回世界ジオパーク国際会議(ランカウイ島)

黄山市、済州島との連携と相互訪問

2009年7月、洞爺湖は、黄山ジオパークのある安徽省黄山市の太平湖と「友好湖」関係の協定を締結しました。その後、洞爺湖有珠山ジオパークから黄山市に2回、計18名(2010、2011)、黄山から洞爺湖有珠山ジオパークに2回、計19名(2011、2012)の相互訪問を行い、ジオパーク振興、観光相互誘致の意見交換や交流を行っています。

また、2011年8月13～15日、韓国の済州島世界ジオパークより Woo, Kyong Sik 教授ら3名が視察に訪れ、当地域のジオサイトの見学と、保全状況などについての意見交換を行いました。さらに、2013年5月には当ジオパークより2名が済州島を訪問するとともに、2013年7月には済州島の禹瑾敏知事が当ジオパークに来訪し、北海道の高橋知事と双方のジオパーク交流の在り方等について意見交換を行う予定です。



岡田弘学識顧問と石畑火山マイスターによる
西山山麓火口散策路の案内

国内ジオパークとの交流

世界ジオパークの一員として、日本国内のジオパークやジオパーク加盟を目指す様々な地域からの視察の受入れや相互交流を通じて、様々な情報の交換や協働事業を実施しています。



アポイ岳ジオパーク(JGN)の小学生受入れ



北海道3JGN 地域の合同セミナー



日本ジオパーク全国大会への参加

7-2 学術研究による貢献

研究活動

当ジオパークでは、研究者や研究機関等と連携して地域資源の発掘や科学的根拠の付与、活用方針の検討などを行っています。また、研究者へのフィールドおよび資料の提供とともに、最新の研究知見に基づくジオパーク活動への助言等を受けています。

また、当ジオパークエリアにおいて行われた研究の学術論文、文献、事業報告書などを収集整理して、最新のジオパークに関する学術的な情報の把握や、サイトの利用・整備方針の検討、情報発信などに活用しています。**(別冊 3)**に当ジオパークエリアにおける研究成果等を示しています。

研究発表活動

当ジオパークでは、国際ジオパーク大会をはじめ、地球惑星科学、火山、災害情報など多分野の学会等でジオパーク活動の成果を発表し、交流を行い、ジオパークの国際的な価値を高めるための貢献を行っています。

以下の表は、国際会議や学会等への参加実績です。

国 際

大会名	開催年月	参加者	発表実績
GGN			
3rd International Geoparks Conference 2008 (Osnabrueck - Germany)	2008.6	木村尚司協議会事務局長 岡田弘学識顧問 他 1 名	口頭発表 1
4th International Geoparks Conference 2010 (LangKawi - Malaysia)	2010.4	山中漠協議会会長 岡田弘学識顧問 他 6 名	口頭発表 1 ジオパークフェア出展
5th International Geoparks Conference 2012 (Unzen - Japan)	2012.4	真屋敏春協議会会長 岡田弘学識顧問 他 9 名	口頭発表 1 ポスター発表 1 ジオパークフェア出展
APGN			
2nd Asia-Pacific Geoparks Network Symposium (Hanoi - Vietnam)	2011.7	佐藤秀敏協議会監事 岡田弘学識顧問 他 5 名	口頭発表 2 ポスター発表 1 ジオパークフェア出展
3rd Asia-Pacific Geoparks Network Symposium (Jeju - Korea)	2013.9	真屋敏春協議会会長 岡田弘学識顧問 他	口頭発表 2 ポスター発表 1 ジオパークフェア出展
IAVCEI			
International Association of Volcanology and Chemistry of the Earth's Interior 2013 (Kagoshima - Japan)	2013.7	岡田弘学識顧問 他 2 名	ポスター発表 5
COV			
Cities on Volcanoes 6Tenerife 2010	2010.5	岡田弘学識顧問	
その他のシンポジウム			
Philippine		三松三朗学識顧問	口頭発表 1

国内

大会名	開催年月	参加者	発表実績
日本ジオパーク大会			
第1回糸魚川大会	2010.8	真屋敏春協議会会長 岡田弘学識顧問 他18名	ポスター発表1
第2回洞爺湖有珠山大会	2011.9	開催地	ポスター発表26
第3回室戸大会	2012.11	真屋敏春協議会会長 廣瀬巨学識顧問 他15名	ポスター発表1 ジオパークフェア出展
日本火山学会			
日本火山学会秋季大会	2010.10	三松三朗学識顧問 田鍋敏也事務局長	口頭発表2
地球惑星科学連合大会			
地球惑星科学連合大会 2010	2010.5	岡田弘学識顧問 木村尚司事務局長	口頭発表1 ポスター発表1
地球惑星科学連合大会 2011	2011.5	真屋敏春協議会会長 岡田弘学識顧問 他4名	口頭発表1 ポスター発表1
地球惑星科学連合大会 2012	2012.5	廣瀬巨学識顧問 他2名	ポスター発表1
地球惑星科学連合大会 2013	2013.5	真屋敏春協議会会長 宇井忠英学識顧問 他3名	ポスター発表1
その他			
山陰海岸ジオパーク国際学術会議 2011	2011.10	岡田弘学識顧問 他1名	ポスター発表1

研究者の育成

当ジオパークは、地質学、地球物理学、火山学、生態学、考古学、観光学等の研究に有益な資源を豊富に持っている地域であり、これらを研究フィールドとして大学等研究機関に提供し、当ジオパークが収集整理している世界中の学術資料を提供しています。研究者へのフィールドや資料の提供は、研究者のジオパークへの理解を深め、学会等様々な場面での情報発信や、当ジオパーク推進活動への学術的知見の享受へとつながり、相互利益が得られる貴重な機会として活用されています。

7-3 JICA 研修員受け入れによる貢献

当ジオパークでは、JICA（日本国際協力機構）の事業に協力し、世界中から研修員を受け入れています。火山マイスターや学識顧問、運営スタッフが講師となり、視察や講義を通して、世界各国から集まる研修員に対しジオパーク活動とその成果を紹介し、ジオパークの理解と参画を呼び掛けています。さらに、グアテマラでは、帰国後の研修員を中心にジオパークをめざす動きが始まっています。



中南米地域 火山防災対策能力強化研修

実績：13回（計26カ国、135名）

①中南米地域 火山防災対策能力強化研修（JICA 北海道）
2009年9月8日（火）～11日（金） グアテマラ、チリ、エクアドル研修員 計10名
2010年6月30日（水）～7月3日（土） グアテマラ、チリ、エクアドル、コスタリカ、コロンビア研修員 計10名
2011年6月22日（水）～25日（土） グアテマラ、チリ、エクアドル、コスタリカ、コロンビア、ニカラグア研修員 計11名
2012年6月20日（水）～23日（土） グアテマラ、チリ、エクアドル、コロンビア、ニカラグア研修員 計8名
2013年6月19日（水）～22日（土） グアテマラ、チリ、エクアドル、コロンビア、ニカラグア、エルサルバドル研修員 計10名
②中米地域 防災対策担当者研修（JICA 神戸）
2010年11月14日（日）～17日（水） コスタリカ、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、ニカラグア、パナマ研修員
2011年11月21日（月）～23日（水） コスタリカ、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス研修員 計9名
2012年10月10日（土）～13日（火） コスタリカ、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、ニカラグア、パナマ研修員 計14名
③中南米地域 参加型地域開発のための地方行政強化
2013年5月23日（木） ドミニカ、グアテマラ、ホンジュラス、コロンビア、パラグアイ研修員 計15名
④アフリカ、中東、東アジア地域 都市計画、地域開発行政官
2012年11月8日（木） ガーナ、フィリピン、シエラレオネ、イラク、コソボ、タンザニア、スーダン研修員 計11名
⑤中央アジア地域道路維持管理研修
2009年12月8日（火） カザフスタン、トルクメニスタン研修員 計6名
2010年12月4日（土） カザフスタン、キルギス、トルクメニスタン研修員 計10名
⑥生物多様性情報システム研修
2012年9月15日（土） アルゼンチン、中国、ホンジュラス、ミャンマー、パプアニューギニア、南アフリカ共和国研修員 計8名

8 指摘事項に対する対応状況

登録認定時の指摘事項に対して、現在までに行われている対応は、次のとおりです。

8-1 英訳が不十分であり、素材の翻訳化が必要

- GGN 認定後、解説看板、パンフレット類の多言語化を進め、2 カ国語または 5 カ国（英・中（繁・簡）・韓）を基本に制作しました。
- 外国語に対応した資料、解説看板は添付資料 P.17 のとおりです。

8-2 解説板等で解説板の文章が詳細すぎ一般の人にわかりづらい

- 新規作成、更新に合わせ、平明な内容に随時修正を行っています。
- 新規作成分は 45 基、更新は 73 基（添付資料 P.17）です。

8-3 コンセプトを「エコミュージアム」から「ジオパーク」に変更し、GGN の理念である地質遺産の保護と活用に変える必要がある

- エコミュージアムでは、地域を「火山の恵み」「先人の歴史と海の恵み」「大地の恵み」の 3 つのエリア構成で地域資源の活用を図ってきたが、ジオパークにおいては、洞爺カルデラの誕生から現在までの「変動する大地と人間との共生の歴史」の物語をたどる時間軸の中で、大地の活動と私たちの暮らしとの結びつきを伝える 9 つのテーマに再構築する中で、GGN ガイドラインに準拠したサイト保全、教育普及、ガイド活動、ジオツーリズム推進、地域資源の活用による地域振興等に取り組んでいます。また、エコミュージアム構想に従って整備されてきた既存案内標識・説明板の記載を全てジオパーク様式に改修しました。

8-4 自然崩壊しやすいジオサイトの保護が必要

- 洞爺湖有珠山ジオパークマスタープラン（第 4 章第 2 項）で保護の方針を明確に位置づけ、国・自治体レベルの法規制による保護を軸とし、協議会・住民団体の連携による維持管理・保護活動で補完し実施しています。（3. 保全政策 で前述）

8-5 看板や各種施設等において、ジオパークの魅力発信が不十分

- GGN 認定後、Web、パンフレット、解説看板、ミュージアム、インフォメーション、公共交通拠点等、様々な媒体、施設で情報発信を展開しています。（4. GGN 加盟後の市場戦略と推進活動 で前述）

8-6 ジオパーク内の未活用素材（砂防ダムシステム等）の活用や、火山と地域農業の関係等のアピールが不足している

- 洞爺湖有珠山ジオパークマスタープランで定めるジオサイト選定の方針に従い、地域の住民や関係者からの提案を受け、学識顧問を含む会議で追加を行うことで、新たな素材の取り込みを行っています。認定後に追加されたジオポイントは22地点、追加されたトレイルは13コースです。

- 砂防ダムシステムについては、当ジオパークの火山遺構が砂防施設内に存在し、ガイドツアーの中で欠かせない解説ポイントとして説明されています。また、ジオパークガイドブック、ジオパーク学校教育用テキスト、散策路パンフレット・マップなどでも砂防施設を紹介しています。



- 火山と地域産業との関係は、農畜産物、水産物、ワインといった「食」や、景観、温泉等を「ジオの恵み」として紹介することでアピールを行っています。（5. 持続的経済発展 で前述）

8-7 ツアーガイドの組織化、継続的な研修が必要

- 当協議会のガイド委員会に参画している団体は7団体あり、火山遺構、災害体験、自然、歴史、文化等、多分野にわたり活動しています。これらの団体による案内実績は、36,660人（2011年）です。



- ガイドの組織化については、ジオパークの魅力と価値を伝え広める担い手のネットワークづくりと、ガイドの質の向上を目的に、2012年2月に「洞爺湖有珠山ジオパーク・パートナー登録制度」を導入し、運用を開始しています。現在までに73名が登録されています。

- ガイドを対象としたトレーニングプログラムとしては、「火山マイスター養成講座」「ジオパーク・パートナー講座」「ガイド勉強会・交流会」があります。また、ジオパーク・パートナー登録制度のネットワークを利用し、各団体が自主的に行う研修に他団体のガイドの参加を呼びかけるなど、団体同士の横の連携も生まれています。